

	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
太田真貴 竹田伸也 濱田実央 井上雅彦	就労者の認知の歪み尺度の作成	認知療法研究	7(1)	76-83	2014
宮崎光明 加藤永歳 井上雅彦	自閉症児に対するPECSと動作模様を用いたアイコンタクトおよび発声・発語の促進	行動分析学研究	29(1).	20-31	2014
宮崎光明 福永顕 宮崎美江 井上雅彦	青年期の広汎性発達障害に対する生活シミュレーショントレーニングの効果	LD研究	23(3)	320-330	2014
井上菜穂 井上雅彦 前垣義弘	障害児のきょうだいの心理的支援プログラムの効果	米子医学雑誌	65(4-5)	101-109	2014
平島太郎 伊藤大幸 岩永竜一郎 萩原拓 谷伊織 行廣隆次 松本かおり 内山登紀夫 小笠原恵 黒田美保 稲田尚子 原幸一 井上雅彦 村上隆 染木史緒 中村和彦 杉山登志郎 内田裕之 市川宏伸 辻井正次	:日本版乳幼児感覚プロフィールの標準化—信頼性および標準値の検討	精神医学	55(8)	785-795	2014
平島太郎 伊藤大幸 岩永竜一郎 萩原拓 谷伊織 行廣隆次 松本かおり 内山登紀夫 小笠原恵 黒田美保 稲田尚子 原幸一 井上雅彦 村上隆 染木史緒 中村和彦 杉山登志郎 内田裕之 市川宏伸 辻井正次	日本版青年・成人感覚プロフィールの構成概念妥当性—自閉症サンプルに基づく検討	精神医学	56(2),	123-132,	2014
井上雅彦	発達障害の理解と支援-幼児期や学齢期の問題行動を適応行動に変える-応用行動分析からのアプローチ	臨床心理学	14(1)	46-50	2014

井上菜穂 井上雅彦	発達障害の子どもたちを基本とした学校臨床の再構築のために-過敏性・過鈍性が発達障害の子どもたちの適応状況に及ぼす影響と支援の工夫-	子どもの心と学校臨床	10	29-3,	2014
井上雅彦 松尾理沙 原口英之	社会的支援と発達障害-適応が難しい事例を医療・福祉・教育にどうつなげるか-	臨床心理学	14(2)	194-198	2014
井上雅彦	発達障害児のある子どもの不登校に対する認知行動療法	子の心とからだ	23(1)	45-46	2014
井上菜穂 井上雅彦	発達障害児の家族への支援	公衆衛生	78(6)	402-405	2014
井上雅彦	:ASDと強度行動障害	こころの科学		109-113	2014
井上雅彦	:行動療法	精神科治療学	29	283-287	2014
井上雅彦	:認知行動療法	小児内科	46(11)	1636-1638	2014
井上雅彦 阿部利彦	発達障害の子供たち-自立を目指して-就学前の発達障害のある子どもと親への支援-	社会福祉法人NHK厚生文化事業団	1(1)	1-24	2014
井上雅彦	ペアレントメンターにおける家族支援	社団法人日本自閉症協会	678(145)	5	2014
Yokoyama K, Yamada T, Terachi S, Pu S, Yamanashi T, Matsumura H, Nakagome K, <u>Kaneko K</u>	Milnacipran influences the indexes of I-metaiodobenzylguanidine (MIBG) scintigraphy in elderly	depressed patients. Psychiatry and Clinical Neurosciences	68	169-175	2014
Nakagome K, Yamada T, Itakura M, Satake T, Ishida H, Nagata I, <u>Kaneko K</u>	Association between prefrontal hemodynamic responses during a cognitive task and subjective quality of life in schizophrenia.	Schizophrenia Research,	152	319-321	2014
Nakagome K, Yamada T, Ikezawa S, Itakura M, Satake T, Ishida H, Nagata I Mogami T, <u>Kaneko K</u>	A pilot study on the effects of cognitive remediation on hemodynamic responses in the prefrontal cortices of patients with schizophrenia: A multi-channel near-infrared spectroscopy study.	Schizophrenia Research.	153	87-95.	2014

Kanie A, Hagiya K, Ashida S, Pu S, <u>Kaneko K</u> , Mogami T, Oshima S, Motoya M, Niwa S, Inagaki A, Ikebuchi E, Kikuchi A, Yamasaki S, Iwata K, Roberts DL, Nakagome K.	New instrument for measuring multiple domains of social cognition: construct validity of the Social Cognition	Screening Questionnaire (Japanese version). Psychiatry and Clinical Neurosciences	68	701-711	2014
Nakagome K, Yamada T, Yokoyama K, Matsumura H, Mitani H, Adachi A, <u>Kaneko K</u>	Association between social functioning and prefrontal hemodynamic responses in elderly adults.	Behavior Brain Research.	72	32-39	2014
兼子幸一	抑うつ状態の多様性と適切な治療.	心と社会	45(4)	42-48	2014
兼子幸一	「うつ病の理解のために」	心と社会	45.	11月13日	2014
松村博史 兼子幸一	激しい行動化により半年間にわたり頻回の入院を要し、広汎性発達障害が疑われた思春期女兒の1例.	精神科		108-112	2014
谷川浩三 四元辰平 柿内博人 野村温 高橋健一 <u>川村 尚生</u>	人物追跡システムにおけるカメラの撮影範囲を考慮した隣接関係の計算.	電子情報通信学会論文誌	97(10)	914-918	2014
笹間俊彦 岩崎俊 岡本拓也 高橋健一 <u>川村尚生</u> 菅原一孔	無線型多機能コンセントシステムによる室内状況把握のためのセンサーデータ自動分類.	電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌)	134(7)	949-955	2014
東野正幸 高橋健一 <u>川村尚生</u> 菅原一孔	GAPを用いたキャッシュによるエージェントの同時集中移動時における通信量の削減	コンピュータソフトウェア	3(7)	168-177	2014

會田千重 中山政弘 平野誠 黒木俊秀行	動障害を有する重度・最重度精神遅滞児(者)に対する向精神薬の使用状況—国立病院機構7施設の「動く重症心身障害病棟」における実態調査と病棟担当医による意識調査	児童青年精神医学とその近接領域			2014
會田千重	「強度行動障害を持つ重度精神遅滞児(者)の専門的治療と移行支援に関する研究」研究報告書	(研究代表者)国立病院機構共同臨床研究NHOネットワーク共同研究事業 H24-NHO(重心)-02		1-159	2014
會田千重 中山政弘	国立病院機構ネットワーク共同研究「強度行動障害を持つ重度精神遅滞児(者)の行動療法や構造化による専門医療、および移行支援に関する研究」の1年間のまとめ	日本認知行動療法学会第40回大会ポスター発表			2014
相馬大祐 志賀利一 大村美保 五味洋一 村岡美幸	ショートステイにおける緊急対応に関する研究.	国立のぞみの園紀要	7	117-124.	2014
五味洋一 志賀利一	特別支援学校高等部における中途退学者の実態と障害福祉サービスとの連携.	国立のぞみの園紀要,	7	.103-110.	2014
大村美保 志賀利一 相馬大祐 五味洋一	相談機関における障害者虐待の支援実態に関する研究—相談支援事業所及び障害者就業・生活支援センターに対する調査から—.	国立のぞみの園紀要,	7	.93-102	2014
大村美保 相馬大祐 五味洋一 志賀利一	矯正施設を退所した障害者の地域生活支援体制に関する研究—相談機関への1年後追跡調査による71事例の分析を通して—.	国立のぞみの園紀要,	7	78-86	2014
五味洋一 志賀利一 村岡美幸	強度行動障害の判定基準における基準点および把握される対象者像の検討—障害程度区分および障害支援区分の行動関連項目の比較から—.	国立のぞみの園紀要,	7.	.60-71	2014
志賀利一・五味洋一・村岡美	強度行動障害に係る研究の経過.	国立のぞみの園紀要,	7	.45-59.	2014
大村美保 志賀利一 五味洋一 相馬大祐 村岡美幸	特別養護老人ホームにおける知的障害者の実態に関する研究—利用実態及び入退所に関する抽出調査から—.	国立のぞみの園紀要,	7	.16-24	2014
五味洋一 大村美保 相馬大祐 志賀利一 村岡美幸	障害者支援施設における高齢知的障害者の入所および退所の実態	国立のぞみの園紀要,	7	.7-15	2014

相馬大祐 志賀利一 大村美保 五味洋一	市区町村における高齢知的障害者への支援ー福祉サービス利用の課題とその対応に着目してー.	国立のぞみの園紀要,	7	1月6日	2014
村岡美幸 大村美保 五味洋一 相馬大祐	障害者支援施設で生活する高齢知的障害者の転倒リスクと転倒リスク軽減に関する実践報告.	発達障害研究	36(2).	159-168	2014
相馬大祐 五味洋一 大村美保 村岡美幸	高齢知的障害者の福祉サービス利用の実態と制度上の課題.	発達障害研究	36(2).	109-119	2014
五味洋一 相馬大祐 志賀利一 村岡美幸 大村美保	障害者支援施設における知的障害者の高齢化の実態	精神科臨床サービス	14(1)	.107-111	2014
五味洋一	適切な支援が共有されるようにー強度行動障害支援者養成研修について	手をつなぐ	703	.8-9	2014
岡本邦広	学校における行動問題を示す発達障害児の指導・支援に関する連携方法の現状と課題.	特殊教育学研究	52(3)	217-227	2014
岡本邦広 井澤信三	行動問題を示す発達障害児をもつ母親と教師の協働的アプローチにおける「協議ツール」の効果と支援行動の維持の検	特殊教育学研究	52(2)	.115-125.	2014

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
井上雅彦	自閉症の子ども のための ABA 基 本プログラム	井上雅彦	家庭で無理解で なく対応できた 困った 行動Q&A	学研	東京	2015	8-188
井上雅彦	私たちの行動の わけ-行動の生 じる理由と対応 を知る	牛谷正人・片桐公彦・肥後祥治・福島龍三郎	行動障害のある 人の「暮らし」を 支える	中央法規	東京	2015	84-101
井上雅彦	知ることから始 めよう-根拠を持 って支援する	牛谷正人・片桐公彦・肥後祥治・福島龍三郎	行動障害のある 人の「暮らし」を 支える	中央法規	東京	2015	66-81
市川宏伸	発達障害を理解 しよう-発達障 害とはなんだろ う		発達障害支 援ハンドブ ック	東京都保 健局	東京	2015	6-7
市川宏伸	診断名参照表		発達障害支 援ハンドブ ック	東京都保 健局	東京	2015	8
市川宏伸	発達障害を理解 しよう-薬物療 法		発達障害支 援ハンドブ ック	東京都保 健局	東京	2015	21
市川宏伸	発達障害を理解 しよう-発達障 害と依存症		発達障害支 援ハンドブ ック	東京都保 健局	東京	2015	24
市川宏伸	発達障害を理解 しよう-ライフ ステージを通じ た支援の必要性		発達障害支 援ハンドブ ック	東京都保 健局	東京	2015	25-26
市川宏伸	臨床評価法総論 -行動障害・自閉 症・子どもの発 達障害	山内俊雄・鹿島晴雄	精神・心理機 能評価ハン ドブック	中山書 店	東京	2015	19-20
市川宏伸	精神・行動随伴 症-注意欠陥・多 動性障害および 広汎性発達障害 臨床てんかん学	樋口輝彦・市川宏伸・神庭重信・朝田隆幸	今日の精神 疾患治療指 針	医学書 院	東京	2015	11

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
井上雅彦	自閉症スペクトラムにおける感覚異常に関する行動評価と機能分析アプローチ	発達障害研究	37(4)	324-333	2015
原口英之・加藤香・井上雅彦	発達障害のある子どもへのきょうだい間のトラブルに対するペアレント・トレーニングの効果	小児の精神と神経	55(2)	129-142	2015
Matsuo, R., Inoue, M., & Maegaki, Y	A Comparative Evaluation of Parent Training for Parents of Adolescents with Developmental Disorders	<i>Yonago Acta medica</i>	58(3)	109	2015
宮崎美江・宮崎光明・井上雅彦	発達障害のある子どもへのきょうだい間のトラブルに対するペアレント・トレーニングの効果	小児の精神と神経	55(2)	129-142	2015
Inada N, Ito H, Yasunaga K, Kuroda M, Iwanaga R, Hagiwara T, Tani I, Yukihiko R, Uchiyama T, Ogasahara K, Hara K, Inoue M, Murakami T, Someki F, Nakamura K, Sugiyama T, Uchida H, Ichikawa H, Kawakubo Y, Kano Y, Tsujii M	Psychometric properties of the Repetitive Behavior Scale-Revised for individuals with autism spectrum disorder in Japan	<i>Research in Autism Spectrum Disorder.</i>	15	60-68	2015

谷伊織・伊藤大 幸・平島太郎・ 岩永竜一郎・萩 原拓・行廣隆 次・内山登紀 夫・小笠原恵・ 黒田美保・稲田 尚子・原幸一・ 井上雅彦・村上 隆・染木史緒・ 中村和彦・杉山 登志郎・内田裕 之・市川宏伸・ 辻井正次	日本版短縮感覚プロ ファイルの標準化： 標準値および信頼 性・妥当性の検討	精神医学	57(6)	419-429	2015
原口英之・井上 雅彦・山口穂菜 美・神尾陽子	発達障害のある子ど もをもつ親に対する ピアサポート；わが 国におけるペアレン ト・メンターによる 親支援活動の現状と 今後の課題	精神保健研 究	61	49-56	2015
平本厚美・井上 雅彦・高貝颯	レット症候群におけ る合目的的な手の使 用の形成	子どものこ ころと脳の 発達	6(1)	42-47	2015
井上雅彦	行動論的アプローチ はASD治療の到達点 として何を指すの か	精神療法	41(4)	98-504	2015
井上雅彦	発達障害と家族支援	精神療法.	41(4)	577-584	2015
鳥居深雪・河崎 佳子・海津亜希 子・佐藤克敏・ 鳥越隆士・井上 雅彦	特別支援教育の展 望：インクルーシブ 教育の目指すべきも の-ユニバーサルデ ザインと専門性	教育心理学 年報	54	173-180	2015
式部陽子・岩坂 英巳・井上雅彦	高等学校定時制課程 における行動面・学 習面で「気になる」 生徒の支援に関す る教員へのコンサル テーション効果の検 討	次世代教員 養成センタ ー研究紀要	1	75-81	2015
東野正幸・川村 尚・井上雅彦	強度行動障害のある 人の支援を目的とし た行動測定支援アプ リケーションと情報 共有支援システムの 検討	電子情報通 信学会技術 研究報告	114(497)	41-43	2015
井上雅彦	応用行動分析を用い た発達障害の子ど もへの支援	精神療法	41(2)	185-189	2015

市川宏伸	子どもの薬物療法～医療現場での苦悩わが国の現状	公益社団法人日本精神神経科診療所協会	41(2)	87-99	2015
市川宏伸	個を重んじた教育について-児童青年精神科から見た特別支援教育-	特別支援教育の実践情報	166	4-5	2015
市川宏伸	大人の発達障害 医学概論・総論	心の健康だより	114	2-3	2015
小枝達也	発達性読み書き障害 (dyslexia) 診断と治療の進歩：医療からのアプローチ 今後の研究と診療の展望	脳と発達	47	7-11	2015
Pu S, Nakagome K, Yamada T, Yokoyama K, Matsumura H, Nagata I, Kaneko K	Prefrontal activation predicts social functioning improvement after initial treatment in late-onset depression	Journal of Psychiatry Research	62	62-70	2015
Yokoyama K, Yamada T, Mitani H, Yamada S, Pu S, Yamanashi T, Matsumura H, Nakagome K, Kaneko K	Relationship between hypothalamic-pituitary-adrenal axis dysregulation and insulin resistance in elderly patients with depression	Psychiatry Research	226	494-498	2015
Hagiya K, Sumiyoshi T, Kaneko A, Pu S, Kaneko K, Mogami T, Ohsshima S, Niwa S, Inagaki A, Ikebuchi E, Kikuchi A, Yamasaki S, Iwata K, Nakagome K.	Facial expression perception correlates with verbal working memory function in schizophrenia	Psychiatry and Clinical Neuroscience	69	773-781	2015

Pu S, Nakago me K, Yamada a T, Yokoyama a K, Matsumura ura H, Yamada da S, Sugie T, Miura A, Mitani H, Iwata ata M, Nagata a I, <u>Kaneko K</u>	Suicidal ideation is associated with reduced prefrontal activation during a verbal fluency task in patients with major depressive disorder.	Journal of Affective Disorders	181	9-17	2015
Pu S, Nakago me K, Yamada a T, Matsumura ura H, Yokoyama ama K, <u>Kaneko K</u> , Kurosawa wa Y	Association between Fish Consumption and Prefrontal Function during a Cognitive Task in Male Japanese Workers: A Multi-Channel Near-Infrared Spectroscopy Study.	PloS One	10(4)		2015
Masai M, Pu S, Yokoyama K, Matsumura a H, Yamana shi T, Itakura M, Sugie T, Miura A, Nagata ata I Iwata M, <u>Kaneko K</u>	Residual symptoms were differentially associated with brain function in remitted patients with major depressive disorders	Yonago Acta medica.			2015
<u>兼子幸一</u>	統合失調症の社会機能障害	精神科治療学	30	45-50	2015
<u>兼子幸一</u>	衝動制御障害の考え方と対応への取り組み	アディクションと家族	31	8-14	2015
<u>兼子幸一</u>	統合失調症に対する認知リハビリテーション	精神科治療学	30	817-822	2015
<u>兼子幸一</u>	統合失調症の認知機能障害の神経生物学的背景	精神医学	57	743-752.	2015
Kozo Tanigawa, Miki Tsuji, Kenichi Takahashi, <u>Takao Kawamura</u> , Kazunori Sugahara	Automatic Human Tracking System using Localized Neighbor Node Calculation	Sensors & Transducers	194(11)	54-61	2015

Miki Tsuji, Tappei Yotsu- moto, Kenichi Takahashi, Ko- zo Tanigawa, Takao Kaw- amura, Kazuno- ri Sugahara	Reduction of Neig- hbor Node Calcula- tions for Automati- cally Human Trackin- g System	The Ninth International Confere- nce on Em- erging Sec- urity Infor- mation, Sy- stems and Technologie- s		154-159	2015
Tappei Yotsu- moto, Kozo T- anigawa, Miki Tsuji, Kenich- i Takahashi, Takao Kaw- amura, Kazuno- ri Sugahara	Automatic Human Tracking System using Localization of Neighbor Node Calculation	The Ninth International Confere- nce on Em- erging Sec- urity Infor- mation, Sy- stems and Technologie- s		139-145	2015
Shin Osaki, Masayuki Hig- ashino, Kenic- hi Takahashi, Takao Kaw- amura, Kazuno- ri Sugahara	A Framework to Mitigate Debuggin- g Difficulty on Ag- ent Migration	Proceedings of the 7th Internatio- nal Confer- ence on Ag- ents and A- rtificial Int- elligence		190-197	2015
會田千重・谷口 謙・石井清久	特集/重症心身障害1 -総論、診察、栄養管 理、神経系/神経系の 合併障害の治療・管 理/行動障害、睡眠障 害への対応	小児内科	47(11)	1965-1969	2015
會田千重・中山 政弘・平野誠・ 黒木俊秀	行動障害を有する重 度・最重度精神遅滞 児(者)に対する向精 神薬の使用状況-国 立病院機構7施設の 「動く重症心身障害 病棟」における実態 調査と病棟担当医に よる意識調査	児童青年精 神医学とそ の近接領域	56(1)	114-129	2015
大村美保・相馬 大祐・五味洋 一・信原和典・ 志賀利一	障がい者 福祉サー ビスによる矯正施設 対処者の受入れ・支 援に関する研究1- 全国の障害者支援施 設及び5自治体の障 害福祉サービス事 業の全数調査より	国立のぞみ8 の園研究紀 要		99-112	2015

志賀利一, 五味洋一, 信原和典	強度行動障害支援者養成研修に関する研究－実践研修のプログラム及びテキストの開発・普及について	国立のぞみの園研究紀要	8	81-98	2015
志賀利一, 相馬大祐, 信原和典, 大村美保, 五味洋一	障がい者福祉施設従事者等の虐待防止と対応	国立のぞみの園研究紀要	8	58-80	2015
大村美保, 志賀利一, 信原和典, 五味洋一, 相馬大祐	養護者による障害者虐待事案の分離保護に関する研究－分離保護実績のある5自治体の聞き取り調査より	国立のぞみの園研究紀要	8	51-57	2015
五味洋一, 村岡美幸, 志賀利一, 大村美保, 相馬大祐, 信原和典	相談機関における障害者虐待の認知状況(その2)－地域の相談機関における虐待事例の分析	国立のぞみの園研究紀要	8	35-50	2015
五味洋一, 志賀利一, 天村美保, 相馬大祐	相談機関における障害者虐待の認知状況(その1)－平成25～26年度往復はがき調査結果の比較を中心に	国立のぞみの園研究紀要	8	30-34	2015
信原和典, 志賀利一, 相馬大祐, 大村美保, 五味洋一	壮年期及び高齢期の発達障害者の実態に関する基礎的研究 国立のぞみの園研究紀要2015	国立のぞみの園研究紀要	8	1-7	2015
稲田尚子	海外の取り組みから支援を考える: 毎日の生活の中で対人コミュニケーションスキルを身につける 本人のモチベーションの利用	Asp heart: 14, 広汎性発達障害の明日のために		80-82	2015
東野正幸, 灘本拓, 高橋健一, 川村尚生, 菅原一孔	モバイルエージェントシステムのデバッグに関する研究の展望: 合同エージェント			185～186	2015
灘本拓, 高橋健一, 東野正幸, 川村尚生, 菅原一孔	モバイルエージェントシステムのためのエージェント検索機能の提案: 合同エージェント			187～188	215

Shin Osaki, Masayuki Higashino, Kenichi Takahashi, Takao Kawamura, Kazunori Sugahara	A Framework to Mitigate Debugging Difficulty on Agent Migration	Proceedings of the 7th International Conference on Agents and Artificial Intelligence		190-197	2015
東野正幸、川村尚生、井上雅彦	強度行動障害のある人の支援を目的とした行動測定支援アプリケーションと情報共有支援システムの検討	電子情報通信学会技術研究報告	114(497)	41-43	2015